

令和元年度 学校評価結果報告書

(1) 学校教育目標	本校は、農業、商業、家庭並びに体育に関する学科を持ち、専門的な学習や実践的な活動を通して、人間性豊かで、社会に貢献できる人材の育成を目的とした男女共学の総合専門高等学校である。各学科において、それぞれの特色を十分に発揮しながら、生徒一人一人が自己に適した「一能一芸」を伸ばし、部活動や資格取得に励み、生涯を通じて「生命(いのち)と価値(ねうち)」を探究する人間の育成を目指す。
------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 現状と課題	本校生徒の多くは専門的な知識の習得に励むとともに、部活動にも精力的に取り組み成果を上げている。一方、生徒は様々な分野に潜在能力を秘めているが、その生徒の能力を引き出し、各科及び各教科横断的な指導の工夫がいっそう教職員に求められる。そのため、教職員の共通認識・理解を図り、生徒の持っている潜在能力を引き出し、さらに伸張させる教育活動の充実を図りたい。
-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(3) 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業第一主義の確立及び各種検定資格や職業資格の取得 2. 挨拶の励行、時間の厳守、場に応じた言葉使いの習慣化 3. 個に応じた進路指導体制の強化と志望達成のための意識の育成 4. 勝利至上主義に走らず、人と協調して生きる態度や困難を克服するたくましさや育成するための部活動のさらなる活性化
----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(4) 結果の公表	学校ホームページでの公表
-----------	--------------

学校番号	53
学校名	弘前実業高等学校
課程	全日制の課程

自己評価実施日	令和元年12月20日(金)
学校関係者評価実施日	令和元年2月5日(水)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	学校評議員会(4名) 地域産業界(2) 元本校職員(1) 元本校保護者(1)
----------------------	-------------------------------------------------

自 己 評 価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	(1) 基礎学力の定着及び学科特有の資格取得と技能の育成 (2) 特色ある授業の推進	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒の進路志望等に即した弾力的な教育課程の編成 ②学科間の横断的な指導及び交流を踏まえた総合選択制の効果的な運用 ③習熟度別学習指導の推進 ④各種検定資格の取得に向けた取組の推進 ⑤校内外における研修の推進 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒の進路志望に応じた選択科目・総合選択制に重点を置き検討・設定を行った。 ②数学科及び英語科等で生徒の理解度に応じた習熟度別学習指導を行った。 ③総合選択制では、当初の在り方を確認し、開設科目の検討・設定及び運営方法を検討した。 ④各学科において、検定資格取得に向けての指導を行った。 ⑤外部講師による特別支援教育に係る校内研修を2回行い、特別な支援が必要な生徒の理解を深めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・普通高校に比べ、これだけ多岐にわたる科があると、進路選択の幅が増えるのではないかと。その利点を活かした高校生活を送ってほしい。 ・農業経営科が閉科になるのは、非常に残念である。地域経済にとっても大きな影響があるだろう。本校の農業経営科は部活動の人材を育てる役割も担ってきた。閉科後、男子入学生が減ることが予想されるが、その対策をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な学力差が大きいと、引き続き、習熟度別学習の実施や授業改善により、下位層の生徒のやる気を引き出すとともに、上位層の学力向上を図る。 ・本校特有の総合選択制のメリットを生かし、教科横断的な指導の工夫など、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。 ・総合的な探究の時間及び課題研究の指導の中で学科間連携を深め、探究型学習の充実を図る。
2	(1) 挨拶や容儀等を通じた規範意識の醸成を目指した指導の充実	<ol style="list-style-type: none"> ①毎日の登校時指導による挨拶の励行 ②定期的な服装容儀指導の実施 ③遅刻指導 ④全教員による生徒指導体制の構築 ⑤教育相談の充実 	<ol style="list-style-type: none"> ①②登校時の教員による声かけ活動など、年間を通じた継続指導によって基本的生活習慣が身に付き、挨拶や服装容儀に改善が見られた。 ③生徒の時間を守るという意識が向上している。 ④学校全体として落ち着いた教育活動が行われている。 ⑤スクール・カウンセラーの活用や教育相談委員会での情報共有を通じて、指導の充実が図られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・実業高校は非行問題も少ないし、部活動も一生懸命やっているようなので、このままの体制でやってほしいと思う。基本的なものを捉えて、これから先も頑張ってもらいたい。 ・伝統として培ってきたものを崩すことなく、この先も生徒、先生方が一致団結して続けてほしい。実業の良さを継続していくために先生方頑張ってほしいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の異動等により、長年本校が培ってきた全教員による生徒指導体制に対する共通理解が薄れてきているとの指摘があることから、生徒の質や社会状況を考慮しながら、全教員による指導の充実を図る。 ・スクール・カウンセラーとの面談は非常に有益なことから、スクール・カウンセラーの常時配置を要望するとともに積極的に活用していきたい。
3	(1) 一人一人の能力・適性等を把握し、個に応じた進路指導の充実	<ol style="list-style-type: none"> ①進路ガイダンスや進路講演会の実施、企業や学校の見学会や説明会への参加奨励 ②進路資料室の開放、進路相談の実施 ③進路志望調査、進路情報交換会の実施 ④放課後や長期休業中の進学講習や公務員講習の実施、面接・小論文対策講座の開催 	<ol style="list-style-type: none"> ①進路実現にむけての進路意識の高揚を図り、主体的な進路選択ができるよう促した。 ②就職・進学に関する各種情報の提供を行った。 ③生徒一人一人の適性・能力に応じた進路志望の実現ができるよう、助言・指導を行った。 ④受験に対応できる力の養成を図り、進路志望実現に向けて取り組んだ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・弘前には優秀な企業が多い。優秀な人材をぜひ本校から多数出していただき、地元を支えてほしい。 ・実業の卒業生は各方面で頑張っており、素直で粘り強く、どんどんものを吸収していると評判になっている。これは、教育現場の先生が、一生懸命力を注いで育て、社会にどんどん送り出しているからだと思う。これからも、情報交換しながら良い人材を出していけるように一生懸命協力していきたいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路の早期決定を図りながら、学年・学科・部活動顧問との情報共有及び連携をさらに強めることにより、生徒一人一人の進路実現を目指す。 ・専門高校としての進路指導の在り方について、教職員間の共通理解を図る。 ・数年にわたり整備してきた外部講師による公務員講習をいっそう充実させる。
4	(1) 部活動のさらなる活性化	<ol style="list-style-type: none"> ①部活動の環境整備を進め、生徒の力を十分に引き出す。 ②競技力向上を目指した取組に積極的に参加する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①グラウンドの改修工事に合わせ、運動部活動の環境整備に努めた。 ②後援会の理解により、全国大会等に係る支援の在り方を見直した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・文化部と比べ、今年は運動部の活躍が少なかったように感じる。両方も大いに活躍してくれることを期待したい。 ・高校総体等の結果を見ても、「優勝」が少なかった。ベスト4・8は多いが、その上を目指して頑張ってもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革の視点から、望ましい部活動の在り方について共通理解を図り、生徒の競技力向上及び充実のために、後援会の支援を受けながら、環境及び支援体制を整備する。

(11) 総括	<p>基礎学力の定着に対して、生徒の理解度に応じた学習指導を展開するなど、「授業第一主義」の実践に教員が取り組んでいる。今後は教科横断的な指導を工夫するなど、生徒が主体的、対話的に学習できるような授業改善を教員に求めていきたい。各学科がそれぞれに活発に活動しているが、新学習指導要領を着実に実施するには、総合選択制や課題研究等の指導を工夫するなど、各学科間の連携を充実させる必要がある。生徒の多様な進路希望達成のためには生徒指導が共通の土台となるため、部活動の指導を基盤として、教職員が一丸となって基本的生活習慣の確立と道徳性を養うことをいっそう充実したいと考える。</p> <p>本校の教育の柱は、学科の専門性を探究することと調和のとれた人づくりのための部活動を推進することである。今後も、生徒に寄り添いながら愛情を持って接し、専門職としての自覚と誇りを持ち、生徒の素質を引き出すことを教師像として掲げ、社会に貢献できる人材の育成を目指す。</p>
---------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------